

## 外に出かける猫さんたち、注意して下さい！

これからの時期、人間の風邪がはやると同じで、猫同士の伝染病も多くなります  
伝染病といっても、ただの風邪から命にかかわる重大な病気まであります  
そこで今回は、実際にさかきペットケアにも来院したことのある猫のウイルス性の病気について紹介します

## 『猫の伝染病』



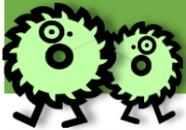
名前の通り、白血球が極端に少なくなる病気で  
体力のない子猫などはたった1日で亡くなってしまふこともある、こわい病気です

ねこはんはつけつきゆうげんしょうしょう

### 猫汎白血球減少症

(原因：パルボウイルス)

元気・食欲低下、高熱、激しい嘔吐・下痢による脱水症状、白血球減少など  
きわめて伝染力の高いウイルスなので  
同居の猫が次から次へと発病することも珍しくありません



いわゆる『猫カゼ』と呼ばれるもの  
鼻水、くしゃみ、涙、よだれなどで顔中クシュクシュになります

ねこ せいびきかんえん

### 猫ウイルス性鼻気管炎

(原因：ヘルペスウイルス)

元気・食欲低下、発熱、くしゃみ、鼻水のほか、

猫ウイルス性鼻気管炎では、涙眼になり結膜炎をおこしたり（写真左）

猫カリシウイルス感染症では、舌や口の周りに潰瘍ができたりします（写真右）

ねこ かんせんしょう

### 猫カリシウイルス感染症

(原因：カリシウイルス)

子猫では、ごはんが食べられずに

衰弱や脱水が激しいと、命の危険もあります



これらの病気を防ぐには？

ワクチン接種がもっとも有効です



\*残念ながら100%予防することはできませんが、感染したとしても非常に軽い症状ですみます

**当院で扱っている【フェロボックス3】というワクチンで、3つまとめて予防ができます**

### ワクチン接種スケジュール

- ① 生後2ヵ月頃…初回ワクチン
- ② 生後3ヵ月頃…2回目ワクチン  
(初回ワクチンの1ヵ月後)
- ③ それ以降は1年ごとに追加接種

子猫は生後しばらくの間、母猫ゆずりの免疫によって守られています。  
この免疫が残っているうちは、ワクチンはうまく働きません。  
初めに2回注射するのは、この免疫が切れる時期に合わせるのと、  
1回目のワクチンが切れる前にもう一度注射すると、  
より強くより長期間続く免疫を獲得することができるためです。  
また、ワクチンによる免疫は一生続くものではありません。  
2年目からは年1回の追加接種によって、免疫を高め維持することが大切です。

## 病院から飼い主さまへお願いしたいこと

それは、より多くの猫ちゃんにワクチン接種をしていただくことです  
この辺りにはまだ、ワクチン未接種のまま外で生活している猫さんがたくさんいます  
そうした環境では、ウイルスは次から次へと感染し絶えることがありません  
ワクチン接種は大切な猫ちゃんを病気から守るだけでなく、

みんながきちんと予防することで、ウイルスは行き場をなくし病気そのものを減らすこともできるのです